

シンガポール共和国

(Republic of Singapore)

I 概要

- 人口
約 554 万人（うちシンガポール人・永住者は 390 万人, 2015 年 6 月）
- 面積
約 719 平方キロメートル（東京 23 区と同程度）
- 政治体制
立憲共和制
- 言語
マレー語（国語）、英語、中国語、マレー語、タミール語（公用語）
- 1 人当たり国内総生産（GDP）
52,888 ドル（2015 年, シンガポール統計局）
- 通貨単位
シンガポール・ドル

《出典》外務省ウェブサイト（<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html>）（更新日：2016 年 11 月 28 日）。

II 教育の普及状況

教育段階	年	在籍率	在籍率	
			男	女
就学前教育	2006 年
初等教育	//
中等教育	//
高等教育	//

（通常の年齢よりも早い又は遅い入学や留年等を理由とする該当年齢以外の在籍者を含む）

III 教育行政制度

教育省は、国の教育方針や政策を決定・実施し、教育制度全般を所管している。また、就学前教育から初等中等教育、高等教育まで全ての教育機関の監督も行っている。

IV 学校体系

(学年暦：1月～11月)

1. 就学前教育

就学前教育は、3～5歳児を対象に、幼稚園及び保育センターで行われる。

2. 義務教育

義務教育は、6～12歳の6年である。

3. 初等教育

初等教育は、6歳入学で6年間、初等学校で行われる。初等教育は、基礎段階（第1～4学年）とオリエンテーション段階（第5～6学年）の2段階に区別される。初等学校修了時には、初等学校修了試験（PSLE）が課される。

4. 中等教育

中等教育は、4～6年間、中等学校で行われる。中等学校ではPSLEの結果に基づき高速コース、標準コースに分かれる。快速コースは、修了時にGCE-Oレベル資格の取得試験を受験する。標準コースは、普通教育課程（アカデミック課程）と技術教育課程に分かれ、修了時にGCE-Nレベル資格を取得すると、さらに1年間就学することでGCE-Oレベル資格の取得試験を受験できる。高等教育段階への進学を希望する者はさらに、中等後教育として位置付けられるジュニア・カレッジ／中央教育学院（2～3年）に進学し、修了時に大学入学資格であるGCE-Aレベル資格の試験を受ける。

職業教育については、ポリテクニクや技術教育学院（ITE）などがあり、それぞれGCE-Oレベル資格を入学要件としている。技術教育学院は、GCE-Nレベル取得者も入学可能。技術教育学院では、ITE全国サーティフィケートなどが取得できる。ポリテクニクは、中等後教育機関として高等教育レベルのプログラムを提供している。

5. 高等教育

高等教育は、大学で行われる。大学には、分野により3～5年の学士課程、1～3年の修士課程、2年以上の博士課程が置かれている。このほか、教育ディプロマ（1～2年、初等教員）、学士取得者を対象とする学卒ディプロマ（1年）などがある。ポリテクニクでは、準学位レベルのディプロマ（3年）を基本に、上級ディプロマなどの取得課程も提供されている。

《参考資料》

- Ministry of Education, *Secondary School Education* (<https://www.moe.gov.sg/>) (2016年7月29日閲覧).
- UNESCO, *World Data on Education*, 7th edition, 2010/11 (2011年5月更新).
- Australian Government, *Country Education Profiles* (<https://internationaleducation.gov.au/cep/Asia-Pacific/Singapore/Pages/default.aspx>) (2016年7月4日閲覧).

V 学校系統図



